

国際化学肥料ニュース (2021年3月)

肥料業界の2021年3月動態

- * 日本の花王は化学肥料用添加剤の生産と販売を強化する。現在、花王は尿素、硫酸、硝安、MAP、DAP、重過リン酸石灰、塩化加里、化成肥料用の固結防止材、防塵材、疎水性物質、腐食防止剤を生産販売して、化学肥料の流通と使用に於いて付加価値を与えている。

- * 窒素肥料の国際価格高騰に伴い、アンモニアも品不足を表し、多くの市場に価格急騰が見られた。特に大需要地のアメリカでは、2月の大寒波により、天然ガスが優先的に民生に供給され、アンモニア生産が停止され、現在も正常に回復されていないため、アンモニア価格が1月初めより約89%も上がり、2014年以来の最高値となった。CFRタンパの3月の契約は445ドル/トンに上昇し、2月より115ドル/トンの値上げである。また、カナダのNutrien社もCFR520ドル/トンで4月納品のアンモニアを予約した。
黒海の最新FOB価格が400ドル/トン、6か月前より200ドル/トンも高くなった。なお、3月日本に輸入したアンモニアがCFR460ドル/トンである。

- * 3月第1週、DAPの国際価格が連続12週間上昇し続けている。昨年12月上旬に比べ、平均で176ドル/トンも上がった。価格高騰の原因は、インドIndorama社は粗りん酸とアンモニア不足で1月末からHaldiaにある生産能力90万トンDAPと165万トンNPK化成肥料工場を停止して、2月末までメンテナンスを行い、国内DAP供給不足で輸入に圧力がかかった。また、モロッコのOCP社とエジプトのAin Sokhna社も第1四半期に生産設備のメンテナンスがあり、OCP社が約80万トン、Ain Sokhna社が約4万トンDAPの減産があった。中国も旧正月休暇で生産が減少するうえ、国内需要が旺盛で、輸出余力が減ったことで、国際市場にDAP欠品の恐れがあるためである。

- * 3月1週目、アンモニア価格がさらに上がった。アメリカから中国多くの地域ではCFR500ドル/トンが現実となった。その理由は2月のアメリカ寒波で、天然ガスが民生に流れ、アンモニアプラントが停止に追い込んだほか、トリニダードの生産量が削減され、アルジェリアも工場のフル稼働が出来ず、品不足で、旺盛な需要に満たさないためである。ただし、この状況が長く続かず、高騰している価格が5~6月頃に下落するだろう。

- * 3月13日、インドRCF社が今年最初の尿素国際入札を発表した。3月22日締め切り、船積み期限4月28日までという条件である。予定購入数量が未定。

- * アフリカ輸出輸入銀行（Afreximbank）はモロッコの OCP 社に 7 年間に計 3 億 5000 万ドルの融資を決定した。融資はアフリカ諸国に肥料流通と保管、配送施設の建設と運営に充てるもので、アフリカ全体での OCP グループの拡張計画をサポートするという。
- * 3 月 24 日、インド RCF 社が行った今年最初の尿素国際入札が開札された。応札数量 192.6 万トン、最低応札価格は CFR 東海岸 379.87 ドル/トン、CFR 西海岸 380.18 ドル/トンで、昨年最初の尿素国際入札より 122 ドル/トン高くなっている。3 月 31 日入札者と数量が決定、4 月 28 日まで納入するという条件である。
- * 3 月 31 日、インド RCF 社が国際尿素入札の契約購入数量を発表した。応札価格が高騰したため、購入数量が 80.25 万トン、そのうち東海岸 26.5 万トン、西海岸 53.75 万トンに縮小した。今回のインド尿素入札のために中国メーカーと商社がすでに 70~80 万トンの尿素を港に集めているが、蓋を開けて、落札したのは 26.5 万トンしかなく、国内価格への値下げ圧力が一層強くなるだろうと専門家が見ている。
- * 中国税関の速報によれば、2021 年 1~2 月の中国硫安輸出量が 32.6%増の 129 万 2396 トン、金額も 1 億 7676 万ドルに達し、ともに最高記録である。昨年 11 月から尿素的の価格高騰により、廉価の硫安がさらに人気が高くなった。
輸出先の国別では、インドネシア 23 万 110 トン、トルコ 17 万 9007 トン、ブラジル 14 万 9092 トン、ミャンマー 13 万 144 トン、ベトナム 11 万 8056 トン、フィリピン 8 万 6329 トン、南アフリカ 5 万 6841 トン、マレーシア 5 万 6344 トン、ナイジェリア 4 万 7600 トン、オーストラリア 3 万 4458 トン。
- * バングラデシュ農業省はりん酸肥料の国際入札を行った。75~80 万トン DAP、15 万トン重過石と 5 万トン粒状 MAP を購入する予定で、4 月下旬締切と契約、6~8 月納品するという条件である。

大手各社の営業業績

- * ドイツの K+S 社は 2020 年の業績を公表した。売上高 37 億ユーロ、EBITDA 4 億 4500 万ユーロで、新型コロナウイルスの影響が殆ど見られなかった。
- * ロシアの Acron 社は 2020 年の業績を公表した。新型コロナウイルスの影響がほとんど見られず、主業の化学肥料生産量が 7%増の 797 万トン、販売量が 3%増の 781 万トン。

ただし、肥料価格の低下により、収益が悪化し、EBITDA が 1%減の 4 億 8900 万ドル、純利益が 86.2%減の 5300 万ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ナイジェリア政府投資庁とモロッコ OCP 社、ナイジェリア国営石油公社 (NNPC)、ナイジェリアコンテンツ開発および監視委員会 (NCDMB)、GACN (ガス集約会社ナイジェリアリミテッド)、アクワイボム州政府、ナイジェリア肥料生産者および供給業者協会 (FEPSAN) が化学肥料に関する 5 つの重要な協定を締結した。主な内容は OCP 社がナイジェリアでアンモニアと肥料を生産する合弁会社を設立し、アクワイボム州に肥料工場を建設する。生産能力が年間 150 万アンモニア及び 100 万トン DAP と NPK 化成肥料。生産されるアンモニアの最大 70%をモロッコに輸出して、残りは DAP と NPK 化成肥料の生産に供する。第 1 期工事の投資額約 14 億ドル、2021 年第 3 四半期建設が開始して、2025 年完成する計画である。

- * アメリカの Koch Fertilizer 社 (KF) はオクラホマ州イーニドにある窒素肥料工場に 1 億 5000 万ドルを投資して、鉄道インフラとアンモニア製品のトラック積み込み施設を改善する計画を発表した。2021 年着工、2022 年完成する。Koch Fertilizer 社は 2014 ~2017 年に 13 億ドルを投資して、イーニド窒素肥料工場の拡張と設備更新を行った。その結果、年間アンモニア生産能力が 180 万トンになり、尿素と硝安、UAN (尿素硝安液肥) の生産能力も大幅に増強した。
Koch Fertilizer 社は最近、ネブラスカ州ビアトリス工場に 9000 万ドル、アイオワ州フォートドッジ工場に 1 億 4000 万ドルの投資も発表した。

- * ロシアの JSC NIIK 社はロシアトゥーラ州にある JSC Shchekinoazot 工業団地にアンモニアと尿素プラントを新設する計画を発表した。アンモニアと尿素プラントは年間アンモニア生産能力 52.5 万トン、尿素 70 万トンのもので、2021 年建設開始予定、完成時期と投資額は不明。

- * ロシアの PhosAgro 社が Volkhov プロジェクトのフェーズ 1 を完成し、稼働開始と発表した。PhosAgro 社の Volkhov プロジェクトはレニングラード州にあり、計画では 280 億ルーブル (約 3.8 億ドル) を投資して、年間 MAP と NPK 化成肥料 77.4 万トンを生産する。2019 年 3 月建設を開始し、2023 年末完成する予定である。フェーズ 1 は生産能力 23.1 万トンの MAP プラント、490 トンの液体アンモニアタンク、1.5 万トンの肥料製品倉庫から構成される。

- * オーストラリアの Salt Lake Potash 社は開発中の Lake Way 加里プロジェクトのプロセスプラントの試運転を開始したことを発表した。6 月から硫酸加里製品を正式に販売することになる。
- * カナダの Saskatchewan Mining and Minerals 社 (SMMI) は Saskatchewan 州 Chaplin の加里精製工場に 2 億 2000 万カナダドルを投資して、年間生産能力 15 万トン硫酸加里の設備を増設する計画を発表した。建設は今年後半から始まり、2 年後に完成する予定である。

その他

- * EU の欧州委員会は化学肥料製品に有害なカドミウムなどの重金属を含まないラベルを自主的に使用する公式ガイドラインを採択した。肥料メーカーと輸入商がカドミウム 20ppm 未満 (20mg/kgP2O5) のりん酸肥料と化成肥料にグリーンラベルを自主的に使用することが認められる。2019 年 6 月、欧州議会と欧州委員会は危険レベルの重金属とヒ素を含有するりん酸肥料の取引を EU 内に全面的に禁止する決定を採択した。2022 年 7 月 16 日以降、カドミウム 60ppm を超えたりん酸肥料の流通と使用を禁止する。
- * インドの Zuari Agrochemicals 社はゴア州にある ZACL のゴア工場とその関連事業を Paradeep Phosphates 社 (PPL) に売却することを決めた。売却金額 2 億 8000 万ドル。ZACL ゴア工場は尿素、DAP と NPK 肥料の製造、流通と輸入、販売を行っており、総生産能力は 120 万トン／年である。
- * アメリカ国際貿易委員会 (USITC) はモロッコとロシアから輸入されるりん酸肥料が政府補助金を受けていることで、アメリカのりん酸肥料産業が重大な被害を受けたという判断を下した。USITC の決定を受け、アメリカ商務省がモロッコとロシアから輸入されるりん酸肥料にアンチダンピング関税を発動することが確実となった。アンチダンピング関税はモロッコの OCP 社に対して約 20%、ロシアの PhosAgro と EuroChem 社に対してそれぞれ 9%と 47%、その他のすべてのロシアメーカーに対して 17%と予想される。
- * ブラジルの Fortescue Future Industries Pty Ltd 社と Portodo Açú Operações SA 社はブラジルのリオデジャネイロで水素ベースのグリーン産業プロジェクトを開発する覚書に署名した。このプロジェクトは、Acu 港に 300MW 容量のグリーン水素プラントを建設することを想定して、年間 25 万トングリーンアンモニアを生産する計画である。

- * 3月23日夜、インド IFFCO (Indian Farmers Fertiliser Cooperative Limited) 社の Uttar Pradesh 州にある Phulpur 窒素肥料工場に爆発事故が発生し、2人死亡、16人けが。爆発の原因は天然ガスパイプのガス漏れとされている。Phulpur 窒素肥料工場は2本の窒素肥料生産ラインがあり、年間100万トンアンモニア、170万トン尿素の生産能力がある。

2020年12月22日、当該工場も天然ガスパイプの漏れ事故が発生し、2人死亡、10人けがという前科がある。

- * 3月31日、中国の中化グループと中国化工の国営2社が合併再編と発表した。2020年の世界トップ500社ランキングに中化グループが109位、中国化工が164位、2社の2019年合計売上高1兆人民元（約16兆円）である。中化グループの上場肥料子会社には魯西化工と塩湖工業、中国化工の上場肥料子会社には倉州大化と Bluestar Adisseo などがあり、中国の化学肥料市場の有力なプレイヤーである。

中国政府が主導した今回の合併再編の主な理由は、2016年中国化工が430億ドルを投じて、スイスの農業資材を主業とする Syngenta 社を買収したが、経営が好転せず、2017～2019年の3年間でずっと赤字で、赤字総額が280億人民元（約40億ドル）超を膨らんだ。今回の合併再編は中化グループによる中国化工を救済する目的である。